

美術學校 近日設立せらるゝ美術學校の創立經費ハ金十五万圓の見込にて學校の構造ハ木製の洋風に止め器械及び有用品を多く備へる事にせられしか又同校の教頭ハ米國人フエノロサ氏が委託せらるべしとの説あり

(同年同月同日『東京日日新聞』)

美術學校 前号にも記せし同校ハ上野教育博物館あとへ設置し遠からず開校するとの由なるが生徒ハ廣く志願者より募集するも可成たけ各地方製産組合より適當の者を選抜し特に美術に關する製作品の産地へ論し研究者を出さしむる計畫なりとか而して其生徒ハ單に學術のみに依らず能く稟性の巧拙をも鑑察し美術上に篤志なるものを採用する見込と云ふ又同校設置の目的ハ本邦固有の美術を振興するに在りて從來本邦の工藝ハ畫學の思想に乏しきより往々眞を失するが如き弊あれば同校ハ主として生徒に畫學の思想を養成し學科ハ畫學、彫刻、陶器畫、蒔繪、繡物其他本邦固有の美術を教授するとの趣なり

(同年同月六日 同紙)

美術學校 文部省にては美術學校新築上に付取調を急がるゝ由にて濱尾専門學務局長岡倉美術學校幹事今泉同校掛の諸氏ハ同省に於て午後六時頃迄も取調べ居らるゝと云ふ

(同年同月二十八日 同紙)

## 東京美術學校規則制定

「東京美術學校規則」は明治二十二年十月三日に制定され(『文部省第十六年報』による)、翌々日発行の『官報』第一五八二号に掲載された。左記は制定時に印刷された規則書の全文である。これと『官報』登載の規則書とは語句に極く僅かの違いが認められる。

### 東京美術學校規則

#### 總則

- 第一條 東京美術學校ハ繪畫彫刻建築及圖案ノ師匠(教員若クハ製作ニ從事スヘキ者)ヲ養成スル所トス
- 第二條 本校ニ普通科及專修科ヲ置キ普通科ヲ卒リタル者ハ普通圖畫ノ教員タルニ適應スヘク又ハ教員會議ヲ以テ專修科ノ生徒ニ撰舉セラル、ヲ得ヘシ

#### 學科課程

- 第一條 普通科ノ修業年限ヲ二箇年トシ之ヲ分チテ二學級トシ專修科ノ修業年限ヲ各三箇年トシ之ヲ分チテ三學級トス
- 第二條 專修科ノ課程ハ繪畫彫刻建築及圖案ノ四科課程トス但建築科課程ハ追テ之ヲ定ム
- 第三條 普通科及專修科ノ課程左ノ如シ

#### 普通科

#### 第一年

#### 畫格

每週九時

圖案	同	六時
造型	同	六時
幾何畫法	同	二時
理科及數學	同	四時
歷史	同	二時
和漢文	同	二時
第二年		
畫格	每週七	時
圖案	同	六時
造型	同	六時
透視畫法	同	二時
理科及數學	同	四時
美學及美術史	同	二時
歷史	同	二時
和漢文	同	二時
專修科		
繪畫科		
第一年		
古畫臨摸	每週六	時
寫生	同	十一時
新案	同	六時
美術解剖	同	二時
透視畫法	同	二時
美學及美術史	同	三時

歷史及古物學	同	二時
和漢文	同	二時
第二年		
古畫臨摸	每週六	時
寫生	同	十時
新案	同	十時
美學及美術史	同	三時
歷史及古物學	同	三時
材料及手訣	同	一時
建築術大意	同	一時
第三年		
新案	每週二十六	時
建築裝飾術	同	六時
彫刻物彩色法	同	二時
彫刻科		
第一年		
古製模造	每週五	時
寫生	同	十時
新案	同	六時
圖案	同	二時
美術解剖	同	四時
美學及美術史	同	三時
歷史及古物學	同	二時
和漢文	同	二時

第二年

古製模造 毎週四時

寫生 同八時

新案 同八時

圖案 同二時

美學及美術史 同三時

歷史及古物學 同二時

材料及手訣 同四時

彫刻彩色法 同二時

建築術大意 同一時

新案 第三年 每週二十八時

建築裝飾術 同六時

圖案科

第一年

圖案 每週十時

寫生及古畫臨摸 同九時

造型 同六時

器物論 同一時

材料論 同二時

建築術大意 同一時

美學及美術史 同三時

和漢文 同二時

特種工藝圖案 第二年 每週十二時

工場實習 同二十時

美學及美術史 同二時

第三年

特種工藝圖案 每週十二時

工場實習 同二十二時

學年學期及休業規程

第一條 學年ハ九月十一日ニ始マリ七月十日ニ終ル學年ヲ二學

期ニ分チ第一學期ハ九月十一日ヨリ二月十五日ニ至リ第二學

期ハ二月二十三日ヨリ七月十日ニ至ル

第二條 休業ハ十二月二十五日ヨリ一月七日ニ至ル二週間二月

十六日ヨリ同月二十二日ニ至ル一週間七月十一日ヨリ九月十

日ニ至ル二箇月トシ日曜日及左ノ祭日祝日ハ休業ス

一 秋季皇靈祭

一 神嘗祭

一 天長節

一 新嘗祭

一 孝明天皇祭

一 紀元節

一 春季皇靈祭

一 神武天皇祭

第三條 授業ハ十一月一日ヨリ三月三十一日マテ午前八時三

十分ヨリ始メ四月一日ヨリ十月三十一日マテ午前八時ヨリ始

ム 入學在學及退學規程

第一條 入學ノ期ハ每學年ノ始メトス但臨時入學ヲ許スコトアルヘシ

第二條 普通科生徒ハ各府縣ヨリ募集シ本校ニ於テ入學試験ヲ受クル者ト府縣廳ノ特選ニ係ル者トノ二種トス

第三條 普通科へ入學スル生徒ハ年齢滿十六年以上滿二十五年以下トシ品行善良身體強健ニシテ本校ニ於テ入學試験ヲ受クヘキ者ハ左ニ掲クル課目ニ合格スルモノトス

入學試験課目

(一) 讀書及作文 漢字交リ文

(二) 算術 全體

(三) 日本歴史 大要

(四) 臨畫

(五) 圖案若クハ彫刻模造

第四條 府縣廳ノ特選ニ係ル者ハ同廳ニ於テ美術上ニ望アリト認メ且入學試験課目中第一第二第三ノ課目ニ合格ノ證明ヲナスモノニシテ其第四及第五中ノ課目ニ相當スル製作物ヲ本校ニ送致スルモノトス本校ニ於テ其製作物ヲ評定シ入學ヲ許否スルモノトス

第五條 入學試験課目中第四第五ノ課目ニ於テハ其流派及材料ニ拘ハラズ之ヲ評定シ其技能殊ニ優等ノ者ハ他ノ課目ニ合格セスト雖モ特ニ入學ヲ許スコトアルヘシ

第六條 入學志願者ハ入學願書(第一號)ニ履歷書(第二號)ヲ添ヘテ本校書記ニ出スヘシ

第七條 本校ニ於テ入學試験ヲ受クル者ハ試験料金一圓ヲ納ム

ヘシ但自己ノ都合ニ由リ入學試験ヲ受ケサルモ既納ノ試験料ハ返付セサルモノトス

第八條 入學ノ許可ヲ得タル者ハ正副保證人ト連署ノ上在學證書(第三號)ヲ出スヘシ

第九條 正副保證人トモ年齢滿二十五年以上ノ男子ニシテ東京府内ニ一家計ヲ立テ相當ノ身分アルモノタルヘシ

但保證人又ハ副保證人事故アリテ變更ヲ要スルトキ若クハ本文ノ資格ヲ失フトキハ速ニ他人ヲ以テ之ニ代ヘ更ニ在學證書ヲ差出スヘシ又正副保證人トモ三週間以上府外ニ旅行スルトキハ相當ノ代理人ヲ立テ豫メ届置クヘシ

第十條 生徒疾病其他事故アリテ一日若クハ二日缺課スルトキハ其翌日保證人若クハ父兄ヨリ其旨届出ツヘシ引續キ三日以上缺課スルトキハ其理由及日限ヲ記シ當日又ハ翌日中ニ届出ツヘシ若シ病氣缺課七日以上ニ及フトキハ醫證ヲ添ヘテ差出スヘシ

第十一條 生徒若シ引續キ二學年進級スル能ハサルトキハ除名シ怠惰不行狀ノ者ハ退學ヲ命ス

第十二條 生徒疾病其他已ムヲ得サル事故ニ由リ退學セントスル者ハ其事由ヲ詳記シ正副保證人連署シテ願出ツヘシ

試業及證書規程

第一條 試業ハ每學期ノ終ニ於テ之ヲ行ヒ學期試業及平常課業ノ成績ヲ比照シ各科目ノ學期成績ヲ甲乙丙丁ノ四種ニ評定ス學年ノ終ニ於テ各課目ノ兩學期成績ヲ通計シテ乙以上ハ之ヲ進級セシム

但同課目ノ兩學期成績ノ差異ヲ通計スルニハ甲ト丙丙ト甲  
ハ之ヲ乙トシ乙ノ丁ト乙ハ之ヲ丙トス其他ハ總テ第二學  
期ノ成績ニ准據シテ之ヲ通計ス例ヘハ甲ト丁乙ト丙ハ之ヲ  
丙トシ丁ト甲丙ト乙ハ之ヲ乙トス

第二條 繪畫彫刻等美術ノ實技ニ關スル課目ノ成績ハ當該教員  
ノ意見ヲ參酌シ本校教員會議ニ於テ之ヲ評定ス學年ノ終ニ於  
テ該課目ノ成績殊ニ優等ナルモノハ他課目ノ成績ニ乙以下ノ  
モノアリト雖モ特ニ進級セシムルコトアルヘシ

第三條 學期試業ニ缺席スル者ハ進級ノ格ヲ失フモノトス

但疾病其他止ムヲ得サル事故アリテ缺席スル者ハ一週日以  
内ニ其事由ヲ詳記シ保證人連署ノ上試業ヲ願出ツルトキハ  
平常課業ノ成績ヲ參酌シ之ヲ許スコトアルヘシ

第四條 學業及品行共ニ殊ニ優等ナル生徒ヲ選ヒ之ヲ特待生ト  
ナシ證狀ヲ與ヘ一學期若クハ一學年間ノ授業料ヲ免除ス

第五條 普通科及專修科所定ノ課程ヲ履修シ試業ヲ完了シタル  
者ニハ各其卒業證書ヲ付與ス

但專修科卒業證書ヲ三種トシ卒業生中優等ノ者ニハ第一種  
尋常ノ者ニハ第二種之ニ次ク者ニハ第三種ノ證書ヲ付與ス  
第六條 生徒在學中ノ人物ヲ査定シ優等及尋常ノ二種トシ卒業  
ノ際其證書ヲ付與ス

#### 研究科規程

第一條 專修科卒業ノ生徒ニシテ猶其實技ヲ研究セント欲シ願  
出ツル者ハ適當ト認ムル者ニ限り研究生タルヲ許スコトアル

ヘシ

第二條 研究生在學期限ハ二箇年以内トス

第三條 研究生ハ各自ノ志望ニヨリ特ニ某教員ノ指導ヲ受クヘ  
キモノトス

第四條 研究生ハ自己ノ新案ヲ以テ特別ノ製作ヲナスヘキモノ  
トス每學年ノ末教員會議ニ於テ其成績ヲ評定シ優劣ニ隨ヒ第

一第二第三ノ三種ノ證狀ヲ付與ス

第五條 研究生ハ保證人ヲ要セス授業料ヲ徵集セス

第六條 研究生實技研究ノ爲メ旅行ヲ要スルトキハ旅費ヲ給與  
スルコトアルヘシ

#### 撰科規程

第一條 專修科中特ニ一課目若クハ數課目ヲ撰ヒテ學修セント  
欲シ入學ヲ願出ツル者ハ年齢滿十八年以上ニシテ當該教員ニ  
於テ試驗シ所撰ノ課目ヲ學修スルニ堪フルト認ムル者ニ限り  
各級正科生ニ缺員アルトキハ撰科生トシテ入學ヲ許ス

但和漢文歴史等ハ之ヲ撰フコトヲ得ス

第二條 撰科生ハ所撰ノ課目ニ就テ正科生ト同シク試業ヲ受ケ  
合格ノ者ハ願ニ依リ證狀ヲ與フルコトアルヘシ

第三條 入學及授業料其他ノ規程ハ正科生ト同シク遵守スヘキ  
モノトス

#### 授業料及其他ノ費用

第一條 授業料ハ一箇月金一圓トス該金額ハ毎月ノ始メ定日ニ  
於テ本校會計員ニ納ムヘシ

但夏期休業二箇月間ハ授業料ヲ徵收セス

第二條 教科用ノ圖書繪畫彫刻用ノ小道具及繪具紙等ハ總テ生

徒ノ自辨トス

但實技上重要ノ器品等ハ本校ヨリ之ヲ貸付ス

第一號書式

入學願書 (用紙美濃 紙二ツ折)

私儀御校ニ入學仕度履歷書相添此段相願候也

宿所

本籍族 (戸主アラサレハ 某子弟等)

年月日

姓 名印

何年何月生

東京美術學校長某殿

第二號書式

履歷書 (用紙美濃 紙二ツ折)

一何年何月何地何立何學校ニ入り又ハ教師某ニ就キ何年間何

學修業云々

一何年何月何地ニ於テ何年間何業ニ從事云々

一何年何月何所ニ於テ何事ニ付賞罰ヲ受クル等

一家業何々

右之通有之候也

本籍族 (戸主アラサレハ 某子弟等)

姓 名

何年何月生

第三號書式

在學證書 (用紙美濃 紙二ツ折)

私儀今般入學御許可相成候ニ付在學中御規則等固ク相守リ

勤學可仕候依テ右證書如斯候也

宿所

本籍族 (戸主アラサレハ 某子弟等)

年月日

姓 名印

東京美術學校長某殿

右ノ者從來品行善良ノモノニテ前文之趣相違無之候ニ付私

共保證人ニ相立テ平常本人ノ品行等監督可致ハ勿論在學中

ニ係ル事件ハ一切引受可申候依テ右保證候也

但轉居改印等有之節ハ速ニ御届可致候也

宿所

本籍族職業

年月日

保證人 姓 名印

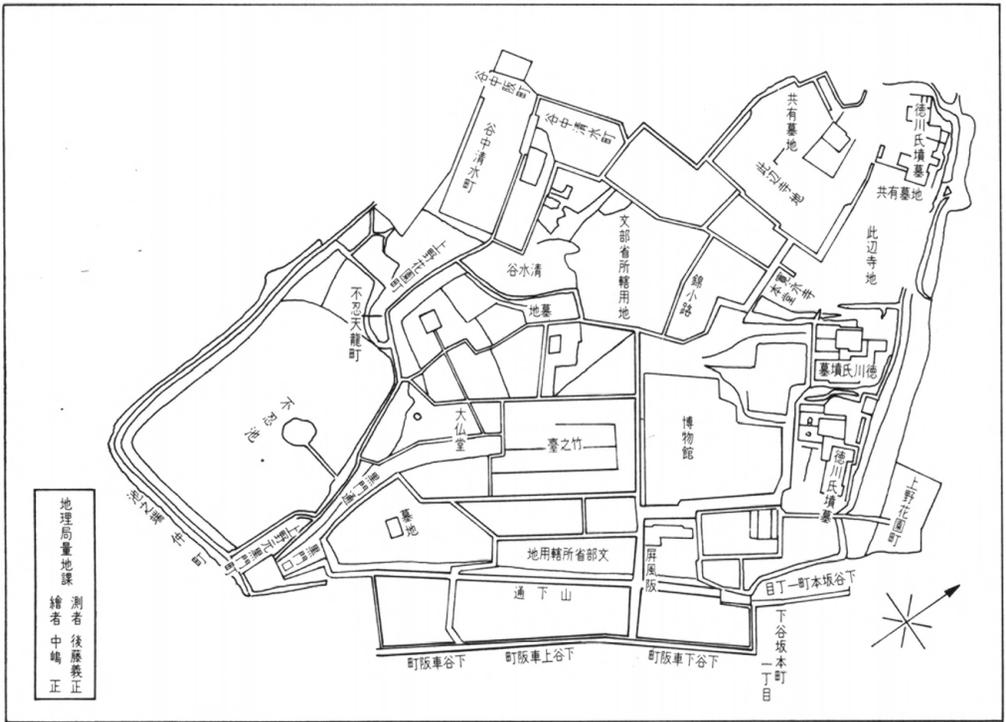
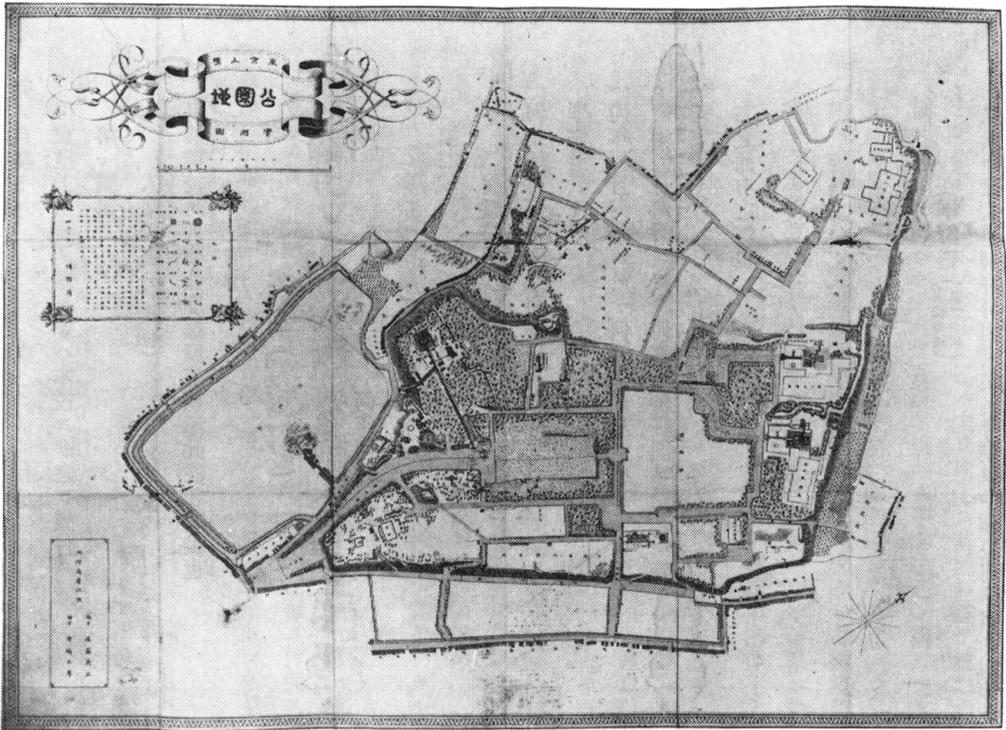
何年何月生

同上

副保證人 姓 名印

同上

なお、『文部省第十六年報』(明治二十一年)の本校に関する項に「十二月七日、内務省ヨリ讓受ケタル彫刻用器具等ヲ本校ニ下付ス」という注目すべき記述があるが、詳細は不明である。



東京上野公園地実測図 明治10年